

# 忍海角刺宮(葛城市)

おしみのつのさしのみや

いとよ いとよあおのこうじよ

ここは角刺神社で飯豊天皇(飯豊青皇女)の角刺宮伝承地/近くには宮内庁治定の飯豊天皇陵が所在する



説明板が立っている



かつらぎのそつひこ  
飯豊青皇女は葛城襲津彦に繋がる皇女で、清寧天皇崩御の後、皇太子億計と皇子弘計の兄弟が譲り合ってなかなか皇位に就こうとしないので、10ヶ月ばかり、ここ忍海の「角刺宮」で朝政を執ったとされている/つまり、飯豊天皇こそが最初の女帝だったということになるのだが…

奈良県葛城市忍海鎮座  
つぬ さし じん じゃ  
**角刺神社**  
いとよあおのみこと  
**御祭神 飯豊青命**  
(旧村社)

**由緒**

第二十二代清寧天皇が崩御された時、皇太子億計王(仁賢天皇)と皇子弘計王(顕宗天皇)の兄弟は互いに皇位を譲り合い、なかなか御位に就かれないので姉君である飯豊青命が代わって、この地で朝政を執られました。

日本書紀には

倭辺に見が欲しものは忍海のこの高城なる角刺宮とあり、大層立派な建物であったようです。

飯豊青命の執政期間は短く、わずか十ヶ月余りで崩御され葛城埴口丘陵に葬られました。北西九百メートル先にある飯豊天皇陵がそれです。

飯豊青命は記紀では天皇としては認められてはいませんが、天皇の扱いになっている歴史書も古来より数冊残されており、史上初の女性天皇としてその歴史に注目が集まるどころです。

**鏡池**

境内にある鏡池は飯豊青命が毎朝、鏡代わりに使った池と伝えられています。またこの池は蓮池とも呼ばれていて、當麻寺の中將姫が曼荼羅を織るための蓮糸をこの池から採ったと言われています。

**忍海寺**

境内に建つ忍海寺は神仏習合の表れとして神社に置かれた寺院である神宮寺です。本尊の観音菩薩立像は飯豊青命が仏の姿で現れたものではないかと伝えられています。

正面は神仏習合時代の神宮寺の忍海寺





左手に境内を見る



こちらが角刺神社社殿



この辺りは5世紀の終わり頃、日本の政治の中心として栄えたようです。  
8世紀の初めの奈良時代に完成した日本書紀には「忍海の角刺の宮は立派で到底、我々の望むべくもない手の届かぬものである」と歌われています。

日本の歴史上、最初の実在人物とされる葛城襲津彦（かつらぎのそつひこ）が5世紀の初め頃、新羅から連れ帰った人が住みつけたのが忍海の始まりとされています。その人たちは鍛冶仕事に従事する渡来系集団として活躍したそうです。忍海の西に位置する平岡で公園墓地の建設にあたり、昭和61年に発掘調査が行われました。その時、鉄鉗（かなはし=ヤットコ）、鉄床（かなとこ）、鉄錘（かなづち）等の鍛冶道具が出土しました。また、鉄製の馬具、鉄製の紡錘車、スキ先、鎌等、鉄製品が多く出ました。これらには朝鮮半島と関係深い遺物が目立ち、渡来系の鍛冶集団の埋葬を示唆しています。また、その後忍海の西側の脇田で古代寺院遺跡が発掘されました。今の脇田神社の周辺には地光寺跡とされる伽藍遺構があり、新羅系の特異な鬼面文のある軒丸瓦が出土しています。太い眉、細い目で写実的でいかつい鬼の顔です。鉄器製作との関わりを窺わせるものも多数、見つかっています。さらに、東大寺の大仏製作にも忍海の人が携わったことが記録に残されています。

6世紀の中頃、百済の聖明王が日本に仏教を伝え、聖徳太子が熱心に信仰されたこともあり、仏教は急速に広まりました。

忍海寺（にんかいじ）は宮寺と呼ばれているように神宮寺です。

神仏習合の結果、神社を守る寺として設けられ、明治維新の廃仏毀釈にもかかわらず仏教寺院様式の建物として残されましたが、集会所が無かった事から昭和34年に社務所風に改築されました。しかし老朽化と耐震性に問題があるとして再建することになりました。発掘調査も行い、周辺整備もして末永く歴史を伝えていくべく努力をしています。

このように忍海は、歴史時代の初めより明治30年に葛上郡と合併して南葛城郡となるまで忍海郡（おしみごおり）として長く続いています。

1500年前に日本にはじめて伝えられた、漢字、機織り、鉄器作りの技術等はこの忍海の地より各地に広がったのかもしれない。

この古い歴史を誇りとして正しく次の世代に伝え、地域全員で由緒ある角刺神社を守ってまいります。

奥から境内を見たところ/正面前方に鏡池がある



これが鏡池



左手にも説明板が立っている





## 分水石と九平さん

江戸時代後期に忍海と近隣の村との水争いで火柱を抱くものがあればその村の主張を聞くとの話が出ました。

そこで忍海の九平さんが犠牲的精神を持って火柱を抱いた結果、忍海に有利な割合で水を分けることが出来ました。

ここにある分水石ぶんすいせきは当時の決められた割合通り水が流れるように溝幅が刻まれています。

この石は忍海の西にある戸分とわけケと言う分水地点にあったもので住宅団地開発に伴い当地に移転し保存されています。

九平さんはその後当時としては長生きをして明治八年に亡くなれましたが村を救った義民として今も親しみをもって九平さんと呼ばれ祭られています。

ここに遺徳を偲び功績を記します。

平成二十年十二月

忍海土地改良区

こんなものも



参考ホームページ

<https://ryobo.fromnara.com/palace/p022-2.html>

<http://inoues.net/club6/oshimi2.html>

<https://ameblo.jp/benben840105/entry-12367148360.html>

[http://www.naraliving.com/sneaker/katsuragi\\_02.html](http://www.naraliving.com/sneaker/katsuragi_02.html)

<http://www.7kamado.net/tunusasi.html>

<https://enkieden.exblog.jp/21312692/>

<https://blog.goo.ne.jp/4n5mori1945/e/5b09d294c4eb6747ec8ed72d98ec598e>

<https://plaza.rakuten.co.jp/utiwauke/diary/201705060001/>

